

2013 年度事業活動報告書



2014 年 5 月

一般財団法人 福岡ユネスコ協会

ユネスコ憲章前文

この憲章の当事国政府は、その国民に代って次のとおり宣言する。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳、平等、相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人間と人類の不平等という教義をひろめることによって可能とされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果たさなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取極のみに基く平和は、世界の諸人民の一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和は、それが失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の充分で平等な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに探究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し及び相互の生活を一層真実に一層完全に知るために、この伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

1. 福岡ユネスコ文化講演会

(1) テーマ：「香港映画は二度死ぬ—中国返還以降の挑戦」

講師：野崎 敏氏(のざき・かん、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)

日時：2013年6月1日(土) 13:30～17:00

①講演会 13:30～14:45 ②映画上映 15:00～

上映作品：香港映画『玻璃の城(ガラスの城)』(1998年、メイベル・チャン監督、35ミリ、カラー、111分)

会場：福岡市総合図書館映像ホール「シネラ」(福岡市早良区百道浜)

共催：福岡市総合図書館、映像ホール・シネラ実行委員会

参加者：90名

【企画意図】：1997年7月1日に香港の主権がイギリスから中華人民共和国へ返還された。港湾都市、金融都市として栄えてきた香港は、アジアの中の映画都市でもある。中国返還前と返還後との大きな社会の変化が、映画においてどのように描かれてきたかを探ることを通して、東アジアの映画文化状況を語ってもらうもの。

アジア映画を中心にフィルムの収集・保存を行っている福岡市総合図書館との共催により、講演に加えて関連映画作品の上映を合わせて実施。

講師略歴：1959年に新潟県生まれ。翻訳家、エッセイスト。

東京大学文学部仏文科卒業。専門はフランス文学、映画論。

主な著書：『ジャン・ルノワール 越境する映画』(サントリー学芸賞受賞)『赤ちゃん教育』(講談社エッセイ賞受賞)『異邦の香り—ネルヴァル『東方紀行』論』(読売文学賞受賞)など、アジア映画評論としては『香港映画の街角』『アジア映画で〈世界〉を見る』(共同編集)などがある。

主な訳書：ジャン＝フィリップ・トーサン『浴室』ジャン＝ミシェル・フロドン『映画と国民国家』ミシェル・ウエルベック『地図と領土』など。

〈参考資料〉会場写真、チラシ



(講演) 野崎 敏氏



映像を見せながらの説明

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟＝FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

Fukuoka City Public Library Movie Hall

Ciné-là

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

6

シネラ・ニュース No.195

June.2013



特別企画／公開講座

木村栄文レトロスペクティブ

2011年に亡くなった日本を代表するテレビドキュメンタリー作家、木村栄文の代表作を上映。

特別企画

福岡ユネスコ文化講演会

香港映画は二度死ぬ～中国返還以降の挑戦

現在の文化・社会をテーマに開催する文化講演会。

特別企画

イメージフォーラム・フェスティバル2013

日本最大の実験映像の祭典。日本と世界の最新映像を紹介。



通常上映

映画の中の黒田藩

黒田藩を舞台にした黒田騒動を描いた2作品を上映。



Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

(2) 特別講演会の実施

テーマ：「21世紀のフランス映画 — 希望のイメージ」

文化講演会(1)の講師・野崎 敏氏に専門のフランス映画について、主に映画関係者を対象として講演を行ってもらったもの。

日時：2013年6月2日(日) 11:00～12:20

会場：福岡市総合図書館ミニシアター(福岡市早良区百道浜)

参加者：20名

(3) テーマ：「八幡とあたしの物語」

講師：村田喜代子氏（むらた・きよこ、作家、梅光学院大学教授）

日時：2014年2月28日（金）14：00～15：30

場所：黒崎ひびしんホール（北九州市八幡西区岸の浦）

参加者：260人

【企画意図】：製鐵所を中心にまちが作られていた北九州市八幡、そこで生まれ育った作家村田喜代子さん。現在、地元八幡を舞台にした小説「八幡炎炎記」を総合文芸誌『こころ』（平凡社）に連載中です。

村田喜代子さんが子どものころから親しんだ面白く、おかしなまち「八幡」と「あたし」について語ってもらうもの。

講師略歴：1945年、福岡県北九州市八幡（旧八幡市）生まれ。中学生のころからシナリオ作家を志し、シナリオを学ぶ。1985年に自身のタイプ印刷による個人誌「発表」を創刊。87年、『鍋の中』で芥川賞受賞（後に黒沢明監督により「八月の狂詩曲(ラブソディー)」として映画化される）。現在中間市在住。

主な著書：『白山』（女流文学賞受賞）『真夜中の自転車』（平林たい子賞受賞）『望潮』（川端康成賞受賞）『龍秘御天歌』（芸術選奨文部大臣賞受賞）。小説以外にも独自の視点で絵画を読み解いた『偏愛ムラタ美術館』『偏愛ムラタ美術館一発掘篇』など。最近作は『ゆうじょこう』（読売文学賞受賞）。

〈参考資料〉会場写真、新聞記事、チラシ



（講演）村田喜代子氏

2014年1月30日 西日本(朝)

▶村田喜代子講演会 2月28日
午後2時から、北九州市八幡西区の黒崎ひびしんホール。芥川賞作家・村田喜代子は八幡出身。小説「八幡炎炎記」を文芸誌「こころ」に連載中で、講演では「八幡とあたしの物語」と題し、故郷への思いや創作について語る。参加無料。2月10日（当日消印有効）まで、往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、参加人数（同時申し込み3人まで）を明記し、〒803-8501 北九州市小倉北区城内1の1、北九州市文化振興課内「福岡ユネスコ文化講演会」係へ。定員300人で応募多数の場合抽選。同係＝093(582)2389。

西日本新聞 2014年1月30日（朝刊）

福岡ユネスコ文化講演会(北九州開催)

村田喜代子 講演会

作家
講師 村田喜代子氏
むらた きよこ



プロフィール
1945年、福岡県北九州市八幡(旧八幡市)生まれ。作家、梅光学院大学教授。中学生のころからシナリオ作家を志し、シナリオを学ぶ。1985年に自身のタイプ印刷による個人誌「発表」を創刊。87年、「鍋の中」で芥川賞受賞(後に黒沢明監督により「八月の狂詩曲(ラプソディー)」として映画化される)。「白い山」(1990年)で女流文学賞受賞。「真夜中の自転車」(1992年)で平林たい子賞を、「望潮」(1998年)で川端康成賞を受賞。1999年に「龍秘御天歌」で芸術選奨文部大臣賞受賞。小説以外にも独自の視点で絵画を読み解いた「偏愛ムラタ美術館」「偏愛ムラタ美術館—発掘篇」など。最近作は「ゆうじょこう」(新潮社)。現在中間市在住。

八幡とあたしの物語

製鐵所を中心にしたまちが作られていた北九州市八幡、
そこで生まれ育った作家村田喜代子さん。
現在、地元八幡を舞台にした小説「八幡炎炎記」を
総合文芸誌「こころ」(平凡社)に連載中です。
子どものころから親しんだ面白く、おかしなまち「八幡と
「あたし」を語ってもらいます。

日時 2014年 2月28日(金)
14:00▶15:30(開場13:15)

入場料 無 料 事前申し込みが必要です。

定員 300名様 申し込み多数の場合は
抽選とさせていただきます。

会場 黒崎びびしんホール
福岡県北九州市八幡西区岸の浦2丁目1-1 TEL:093-621-4566



申し込み方法

郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号
参加人数(同時申し込み3人まで)を記入のうえ、
往復ハガキでお申し込みください。
締切:平成26年2月3日(月)当日消印有効
返信ハガキの表面には、返信先住所・氏名をご記入し
裏面には何も書かないで下さい。

申し込み問合せ先

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1
北九州市市民文化スポーツ局文化振興課内
「福岡ユネスコ文化講演会」係
Tel.093-582-2389

主催 一般財団法人 福岡ユネスコ協会・北九州市

2. 福岡ユネスコ文化セミナー2013

テーマ：「未来に可能性はあるか？ — 3.11以降の社会構想 —」

日時：2013年11月16日（土）10：30～17：00

会場：電気ビル共創館3階 大会議室（福岡市中央区渡辺通）

内容：10：30 開会

10：40～11：50 基調講演 講師：大澤真幸氏（社会学者）

13：00～14：45 パネリストによる意見発表（各人35分）

①木村草太氏（首都大学東京都市教養学部准教授）

②中島岳志氏（北海道大学公共政策大学院・法学部准教授）

③小野善康氏（大阪大学社会経済研究所教授）

15：00～16：45 パネリストによる討議 議長：大澤真幸氏

16：45 議長による総括

17：00 閉会

参加者：140人

【企画意図】：東日本大震災後既に2年半が経過した。3.11を経験したことにより、未来のとらえ方が大きく変わらなければならないという声は大きくあがったが、しかし、なかなかその未来像が描ききれないままに時間が経過している現実がある。

戦後の日本の社会制度が経済の成長、一定した人口の増加を前提に組み立てられていたために、失われた20年と呼ばれる経済的不況の継続と少子高齢化による生産年齢人口の減少という現状を目にして、安心して現在を生きてゆけるような未来の社会像、幸福像が描けなくなっている。そのことを最も深刻に実感させ、また危機を加速したのが、2011年3月11日に起きた震災であった。

経済成長を前提としたこれまでの価値観は、環境問題や発展途上国での人口増加、食料やエネルギーの確保の問題など地球規模での見直しを迫られている。しかし、新しい未来像の手がかりがはっきりしない中、いつのまにか日本においては、再び経済成長を求めるといった従来の価値観の延長線上に人々の関心が向かいつつある。果たして、現在の先に未来はあるのか。この問題について社会、政治、経済の側面から検討するもの。

講師略歴

・大澤真幸（おおさわ・まさち）氏

1958年長野県生まれ。

1987年東京大学大学院社会学研究科博士課程修了

主な著書：『ナショナリズムの由来』（毎日出版文化賞）『増補 虚構の時代の果て』『不可能性の時代』『夢よりも深い覚醒へ』『〈世界史〉の哲学—古代篇』『〈世界史〉の哲学—中世篇』他多数。共著に『ふしぎなキリスト教』『おどろきの中国』『二千年紀の社会と思想』など。

- ・木村草太（きむら・そうた）氏
 1980年神奈川県生まれ。
 2003年東京大学法学部卒業、専攻は憲法
 現在首都大学東京都市教養学部准教授
 主な著書：『平等なき平等条項論』『憲法の急所』『憲法の創造力』他

- ・中島岳志（なかじま・たけし）氏
 1975年大阪府生まれ。
 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科博士課程修了
 現在北海道大学大学院法学研究科・公共政策大学院准教授。専門は南アジア地域研究、近代思想史
 主な著書：『中村屋のボース』（大佛次郎論壇賞、アジア・太平洋賞大賞）『ナショナリズムと宗教』（第一回日本南アジア学会賞受賞）『秋葉原事件』『岩波茂雄 リベラル・ナショナリストの肖像』『血盟団事件』他

- ・小野善康（おの・よしやす）氏
 1951年東京都生まれ。
 1979年東京大学大学院経済学研究科博士課程修了
 現在大阪大学社会経済研究所教授
 2010年10月～2012年12月内閣府経済社会総合研究所長
 専攻はマクロ経済力動、国際経済学、産業組織論
 主な著書：『不況の経済学』『金融』『景気と経済政策』『不況のメカニズム』『成熟社会の経済学』他

〈参考資料〉会場写真、新聞記事、チラシ



大澤真幸氏による基調講演



パネリストによる討議

討論会では今後の社会のあり方について、各研究分野の4人が意見を交わした



社会学者、大澤真幸さんら4人が討論 「不可能性」の時代に「可能」を示す

東日本大震災後の社会のあり方を考える講演会が16日、福岡市であった。社会学者の大澤真幸さんが基調講演し、憲法学、近代思想史、経済学といった分野の3人研究者と意見を交わした討論会もあり、閉塞する社会から脱却するための思考について意見を交わした。

福岡ユネスコ協会の主催で約140人が参加した。大澤さんのほか首都大学東京准教授(憲法学)の木村草太さん、北海道大学院

准教授(近代日本思想史)の中島岳志さん、大阪大学教授(マクロ経済動学)小野善康さんが登壇した。基調講演で大澤さんは、現在の社会について、資本主義経済や原発を引き合いに出しながら「沈むことが分かっている船に、必死にならなければならない状態」と切り出した。戦後から25年後の1970年までを全員が同じ理想を追いかけた「理想」の時代、その後の25年間を脱産

文化

ファクス 092(711)6243
メール bunka@nishinippon.co.jp

ていた主人が、地元を中心にも一つの世界を開いた。境界を越える。一つのテーマ」と読み解いた。「不可能は可能、つまり別の船があり得ることを示す必要がある。例えば日米関係も自明とせずに、別の船への想像力を働かせるべき」と提言した。外交、経済、憲法、原発、文学などテーマは多岐にわたったシンポジウムで、小野さんは「政府や企業も効率化ではなく、非競合分野への投資で需要を作り、家計はもっとお金を使えばいい。簡単なこと」と成熟社会での経済のあり方を主張。木村さんは「非競合分野に税金を投資しようとするのは無駄遣いと言われ、責任をとられるかもしれない。だから簡単なことではない」と応じた。中島さんは「日米安保条約を現状のままにした解釈改憲議論やTPP(環太平洋連携協定)など主権が縮小されつつある認識を持つべきだ」。大澤さんは「お金を使うことは決定することで、主権の行使と地続き



朝日新聞 2013年11月12日 (朝刊)

セミナー「未来に可能性はあるか? 3・11以降の社会構想」(福岡ユネスコ協会主催)が11月16日、福岡市中央区の電気ビル共創館3階大会議室である。社会学者の大澤真幸さんらを招き、東日本大震災後の日本の将来像や価値観について討議する。

大澤真幸さんら講演
福岡ユネスコ主催 来月16日セミナー

大澤さんの基調講演に続き、木村草太・首都大東京准教授、中島岳志・北海道大准教授、小野善康・大阪大教授らによる意見発表とパネルディスカッションがある。午前10時半から。一般1500円など。申し込みは11月15日まで福岡ユネスコ協会(092・715・8768)へ、ファクス(092・733・1291)かメール(f.unesco.seminar@gmail.com)で。定員180人。

毎日新聞 2013年10月19日 (朝刊)

文化短信

福岡ユネスコ文化化セミナー「未来に可能性はあるか? 3・11以降の社会構想」が11月16日午前10時半、福岡市中央区渡辺通の電気ビル共創館3階大会議室。転換期の今、従来型ではない未来像の構築はあり得るのかを念頭に議論。午前の部は社会学者大澤真幸が講演を行い、午後の部は、木村草太・首都大東京准教授、中島岳志・北海道大大学院准教授、小野善康・大阪大教授によるパネルディスカッションなどを行う。一般社団法人福岡ユネスコ協会主催。一般1500円、学生・留学生1000円。参加者の氏名、人数、連絡先を明記し、メール=f.unesco.seminar@gmail.comかファクス=092(733)1291で11月15日まで申し込む。先着順。同協会=092(715)8768。

西日本新聞 2013年10月23日 (朝刊)

福岡ユネスコ文化セミナー 2013

'13.11.16(土) 10:30-17:00

[午前] 基調講演 [午後] パネルディスカッション

大澤真幸 氏
社会学者



基調講演・議長

木村草太 氏
首都大学東京准教授



パネリスト

中島岳志 氏
北海道大学准教授



小野善康 氏
大阪大学教授



バブル崩壊後の経済不況から脱却できないまま、少子高齢化が加速した日本。3.11の東日本大震災から2年半を経て何も変わることなく、いつの間にか人々の関心は再び経済成長を求めるという従来の価値観の延長線上に向かっています。新しい社会像を手探りする今、はたしてどのような未来が拓けるのか――

未来に可能性はあるか？

－3.11以降の社会構想－

会場：電気ビル共創館 3F 大会議室

〈福岡市中央区渡辺通 2-1-82〉

入場料：一般 ¥1,500 学生・留学生 ¥1,000 定員：180名 全席自由

申込先：下記の必要事項①～③を明記の上、FAX または Eメールでお申し込みください

FAX 092-733-1291 Eメール f.unesco.seminar@gmail.com

① 氏名 (ふりがな) ※参加者全員 ② TEL および FAX ③ 参加人数 (一般 名、学生・留学生 名)

申込締め切り：11/15 (金) ※定員になり次第、申し込みを締め切ります

一般財団法人福岡ユネスコ協会 問い合わせ tel 092-715-8768 (平日 10 -17 時)

複数でお申し込みの場合は全員のお名前をご記入願います。11/15 までに当協会から申込受理の返信がないときは必ずお問い合わせください。

ふりがな
氏 名

TEL

FAX

E-mail

参加人数：一般 人、学生 人、留学生 人

3. 福岡ユネスコ・アジア文化講演会

目 的：福岡市は他都市に先駆けて質の高いアジア文化の紹介、国内外への発信に長年取り組んできている。このアジア施策の柱である福岡アジア文化賞、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア美術館事業などのこれまでの成果を活かして、質の高い文化情報を継続的に福岡から発信するために、当一般財団法人福岡ユネスコ協会と福岡市とが共働してアジア文化講演会を毎年実施するもの。

第1回目となる平成25年度は、福岡アジア文化賞の第2回受賞者であり、平成24年3月に日本に帰化されて日本文化の研究にますます情熱を傾けておられるドナルド・キーン氏をお招きして、氏の広範な日本文学研究の中から近年の研究テーマ等についてご講演いただくもの。

また、キーン氏の講演に合わせて、氏の日本文学研究が世界の日本文化研究にどのように貢献しているかなど氏の業績についても広く知ってもらう良い機会にするために、日本文化研究者によるドナルド・キーン氏についての講演を合わせて行うもの。

日 時：2013年12月14日（土）

14:00～16:00

場 所：電気ビル本館地下2階 8号大会議室（福岡市中央区渡辺通2丁目）

（※応募者多数のため当初予定していた「電気ビル共創館3階 カンファレンス」から変更）

参加者：270人

内 容：

- ①ドナルド・キーン氏による講演
テーマ：「日本の短詩型文学の魅力」

- ②ドナルド・キーン先生に関するDVD上映（約22分）

- ③ツベタナ・クリステワ氏による講演
テーマ：「ドナルド・キーン先生による俳句解説の魅力」

- ④講演者による著書サイン会

講師略歴

・ドナルド・キーン氏

1922年ニューヨーク市ブルックリン生まれ。日本文学研究者、文芸評論家。コロンビア大学名誉教授。

18歳の時にアーサー・ウェーリー訳『源氏物語』を読んで感動し、日本文学、日本文化の研究を志す。1941年～45年にアメリカ海軍情報士官として従軍。

第2次世界大戦後はコロンビア大学に戻り、ハーヴァード大学、ケンブリッジ大学で学んだ後、1949年にコロンビア大学大学院東洋研究科博士課程を修了。1953年に京都大学大学院に留学。

1955年から2011年4月まで母校コロンビア大学で日本文学を講じる。

1986年コロンビア大学にドナルド・キーン日本文化センターを設立。

2011年3月の東日本大震災後、日本永住・日本国籍取得の決意を表明し、2012年3月に日本国籍を取得。

主な著書：『日本文学史 近代・現代篇』（全8巻）『百代の過客』（読売文学賞、日本文学大賞）『日本文学の歴史』（全18巻）『明治天皇』（毎日出版文化賞）『足利義政と銀閣寺』『正岡子規』『ドナルド・キーン著作集』（全15巻）など。また、古典の『徒然草』や『奥の細道』、近松門左衛門、現代作家の三島由紀夫、安部公房、小田実などの著作の英訳書も多数。

授賞等

1962年 菊池寛賞、1969年 国際出版文化賞、1983年 国際交流基金賞

1985年 読売文学賞、日本文学大賞、1991年 第2回福岡アジア文化賞

1993年 勲二等旭日重光章、1997年 朝日賞、2002年 文化功労者、毎日出版文化賞

2008年 文化勲章、2010年 第5回安吾賞、2013年 第13回現代俳句大賞

・ツベタナ・クリステワ氏

1954年ブルガリアのソフィア生まれ。モスクワ大学アジア・アフリカ研究所日文学科卒業。ソフィア大学東洋語教授、中京女子大学教授等を経て、現在国際基督教大学教授。

専門は日本文学

著書：『涙の詩学—王朝文化の詩的言語』『心づくしの日本語—和歌でよむ古代の思考』

1981年、『とはずがたり』をブルガリア語に翻訳して、ベストセラーとなる。1985年に『枕草子』をブルガリア語に翻訳。

〈参考資料〉会場写真、チラシ



（講演）ドナルド・キーン氏



（講演）ツベタナ・クリステワ氏

平成25年度 福岡ユネスコ・アジア文化講演会

第2回福岡アジア文化賞 芸術・文化賞受賞者
ドナルド・キーン氏、12月福岡に来訪!

2013年12月14日(土) 14:00 ~ 16:00 (13:30 開場)

電気ビル共創館 3階 共創館カンファレンス 大会議室 (福岡市中央区渡辺通 2-1-82)

「日本の短詩型文学の魅力」(仮題)

講演者: ドナルド・キーン氏(1991年(第2回)福岡アジア文化賞 芸術・文化賞受賞者)



1922年アメリカ・ニューヨーク生まれ。日本文学研究者、文芸評論家、コロンビア大学名誉教授。18歳の時にアーサー・ウェーリー訳『源氏物語』を読んで感動し、日本文学、日本文化の研究を志す。1949年にコロンビア大学大学院東洋研究科博士課程を修了。1953年に京都大学大学院に留学。1955年から2011年まで母校コロンビア大学で日本文学を講じ、1986年には同大学にドナルド・キーン日本文化センターを設立。2011年3月の東日本大震災後、日本永住・日本国籍取得の決意を表明し、2012年3月に日本国籍を取得。

主な著書として『日本文学史 近代・現代篇』(全8巻)、『百代の過客』(読売文学賞、日本文学大賞)、『ドナルド・キーン著作集』(全15巻)など。

「世界から見たドナルド・キーン先生」(仮題)

講演者: 国際基督教大学日本文学教授 ツバタナ・クリステワ氏



1954年ブルガリア・ソフィア生まれ。モスクワ大学アジア・アフリカ研究所日本文学科卒業。ソフィア大学東洋語教授、中京女子大学教授等を経て、現在国際基督教大学教授。専門は日本文学。

著書に『涙の詩学—王朝文化の詩的言語』(名古屋大学出版会)

『心づくしの日本語—和歌でよむ古代の思考』(ちくま新書)

1981年、『とはずがたり』をブルガリア語に翻訳してベストセラーとなる。

入場料

一般: 事前申込 1,000円 (当日 1,200円)

学生・留学生: 500円

※ただし、定員に達した場合は当日の参加申し込みはお受けできません。

受付期間

2013年11月1日~30日(30日必着)

※ただし、定員(180名)になり次第締め切らせていただきます。

申込み方法

参加ご希望の方は事前に、講演会名、お名前、一般か学生の別、連絡先(メールアドレスかFAX番号)を明記の上、右記申込先にメールかFAXで申し込んでください。

申込み先

一般財団法人 福岡ユネスコ協会

メールアドレス: fuunesco2013@gmail.com

FAX: 092-733-1291

主催: 一般財団法人福岡ユネスコ協会 共催: 福岡アジア文化賞委員会、福岡市教育委員会

4. 福岡ユネスコ研究講演会

テーマ：「水辺空間の魅力 ― 欧州、アジアの都市を比較して―」

講師：陣内秀信氏（じんない・ひでのぶ、法政大学デザイン工学部教授、
イタリア建築史・都市史）

期 日：2014年1月26日（日）13:30～15:30

会 場：九州大学西新プラザ 大会議室（福岡市早良区西新2丁目）

参加者：105人

目 的：九州出身あるいは九州で活躍している研究者の日頃の専門的な研究内容を少しわかり易い形で講演してもらい、研究者と市民の接点を作るとともに研究者間のネットワークづくりを進めることを目的としたシリーズの第1回目。

イタリアを中心にイスラム圏を含む地中海世界の都市研究・調査を継続的に行い、欧州の魅力的な都市文化づくりを日本に紹介されるとともに、江戸・東京の水辺都市の空間構造を読み解く『東京の空間人類学』を出版されるなど、建築・都市研究の第一人者である陣内秀信氏による講演会を開催するもの。

海にも近く、川もあり、山も近いというコンパクトな街・福岡にとって、海や川との共生ができる水辺空間を形成していく上で参考になるお話も含めて、都市の文脈の中での空間のあり方についてお話しいただいた。

講師略歴：1947年福岡県生まれ。

東京大学大学院工学系研究科修了、工学博士

イタリア政府給費留学生としてヴェネツィア建築大学に留学。

主な著書：『東京の空間人類学』（サントリー学芸賞受賞）『ヴェネツィア―水上の迷宮都市』
『イタリアの街角から』『水の都市 江戸・東京』他多数

〈参考資料〉会場写真、チラシ



（講演）陣内秀信氏



著書サイン会



陣内秀信 講演会

2014年1月26日(日)
13:30~15:30



【テーマ】
水辺空間の
魅力
— 欧州、アジアの
都市を比較して —

会場 九州大学西新プラザ 大会議室

〈福岡市早良区西新2丁目16番〉 地下鉄「西新」駅下車(7番出口)、徒歩約10分

入場料 一般: 事前申込1,000円、申込締切1/24 (当日1,200円)
学生・留学生: 500円(事前申込・当日とも)

申込方法 ①~④を明記の上、下記メール又はFAX宛にお申し込みください

①催し名(陣内秀信講演会) ②氏名(参加者全員)

③連絡先FAXまたはメールアドレス ← 申込受理の返信をします

④一般/福岡ユネスコサポーター/学生 の別

申込先 メール fuunesco2014@gmail.com FAX 092-733-1291

〔主催〕一般財団法人福岡ユネスコ協会 〔後援〕福岡市、福岡市教育委員会
TEL092-715-8768(問い合わせ: 平日10-17時)

《講師プロフィール》

法政大学デザイン工学部教授

イタリア建築史・都市史

1947年福岡県生まれ。東京大学大学院

工学系研究科修士、工学博士。

イタリア政府給費留学生としてヴェネツィア建築大学に留学。

《主な著書》

『東京の空間人類学』

(ちくま学芸文庫、サントリー学芸賞受賞)

『ヴェネツィア—水上の迷宮都市』

(講談社現代新書)

『イタリアの街角から』(弦書房)

『水の都市 江戸・東京』(講談社) 他

以下にご記入の上、福岡ユネスコ協会までFAXして下さい(FAX092-733-1291)。複数でお申し込みの場合は全員のお名前をご記入願います。1/24(金)までに当協会から申込受理の返信がない時はお問い合わせ下さい。

氏名(ふりがな)	返信可能な連絡先をご記入ください FAX
	Email
参加人数 人	一般 ()名 学生 ()名 留学生 ()名

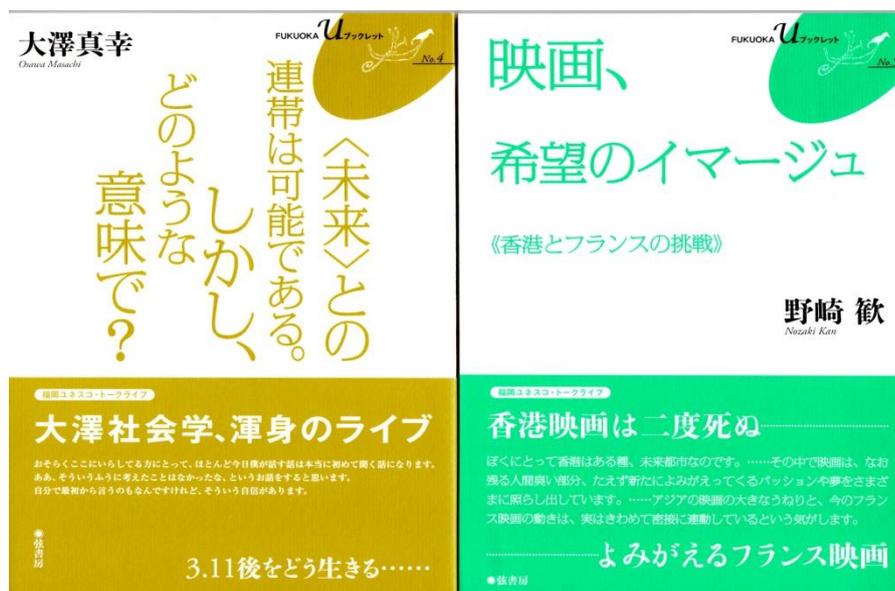
5. ブックレットの出版

当協会で開催する文化講演会での聴衆を魅了した講演内容や活発な討論の記録を、期間をおかず幅広く伝えるために比較的安価なブックレット形式にして、「FUKUOKA Uブックレット」シリーズとして地元の出版社弦書房から発刊して全国の一般書店で販売し、当協会の継続的な活動を紹介している。

第4号 大澤真幸著『〈未来〉との連帯は可能である。しかし、どのような意味で?』
(2013年8月20日発行)

第5号 野崎歓著『映画、希望のイメージ 《香港とフランスの挑戦》』
(2014年2月15日発行)

第6号 ドナルド・キーン、ツベタナ・クリステワ著『日本の俳句はなぜ世界文学なのか』(2014年6月発行予定)



第4号

第5号

一般財団法人福岡ユネスコ協会略年表 (1) <通算 49>

— 2013年4月～2014年3月 —

2013年(平成25年)

- 4月1日(月) 一般財団法人 福岡ユネスコ協会として登記登録し、
法人格を取得
- 4月24日(水) 第1回理事会開催 於：福岡市中央区渡辺通
「電気ビル共創館」
小会議室
- 4月24日(水) 第1回評議員会開催 同 上
- 6月1日(土) **福岡ユネスコ文化講演会(福岡市)** 於：福岡市早良区百道浜
講師：野崎 歆 氏(東京大学大学院教授) 「福岡市総合図書館」
演題：「香港映画は二度死ぬ—中国返還以降の挑戦」 映像ホール「シネラ」
及び香港映画『玻璃の城(ガラスの城)』の上映
- 6月2日(日) **特別講演会** 於：福岡市早良区百道浜
講師：野崎 歆 氏(東京大学大学院教授) 「福岡市総合図書館」
演題：「21世紀のフランス映画—希望のイメージ」 ミニシアター
- 10月29日(火) 第2回理事会開催 於：福岡市中央区渡辺通
「電気ビル共創館」
小会議室
- 11月16日(土) **福岡ユネスコ文化セミナー2013** 於：福岡市中央区渡辺通
テーマ：「未来に可能性はあるか? —3.11以降の社
会構想—」 「電気ビル共創館」
基調講演：大澤真幸(社会学者) 3Fカンファレンス
パネリスト：木村草太(首都大学東京准教授) 大会議室
中島岳志(北海道大学准教授)
小野善康(大阪大学教授)
議長：大澤真幸
- 12月14日(土) **福岡ユネスコ・アジア文化講演会** 於：福岡市中央区渡辺通
・講師：ドナルド・キーン(コロンビア大学名誉教授) 「電気ビル本館」
演題：「日本の短詩型文学の魅力」 8号会議室
・講師：ツベタナ・クリステワ(国際基督教大学教授)
演題：「ドナルド・キーン先生による俳句解説の魅
力」

2014年(平成26年)

- 1月26日(土) **福岡ユネスコ研究講演会** 於：福岡市早良区西新
講師：陣内秀信(法政大学教授) 「九州大学西新プラザ」
演題：「水辺空間の魅力 —欧州、アジアの都市を比
較して—」 大会議室

- | | | |
|----------|--|----------------------------------|
| 2月28日(金) | 福岡ユネスコ文化講演会(北九州市)
講師：村田喜代子(作家)
演題：「八幡とあたしの物語」 | 於：北九州市八幡西区岸の
浦
「黒崎ひびしんホール」 |
| 3月25日(火) | 第3回理事会開催 | 於：福岡市中央区渡辺通
「電気ビル共創館」
小会議室 |
| 3月25日(火) | 第2回評議員会開催 | 同 上 |

